

会

報 委員会

内田百閒先生風
締切厳守のお願い

委員長

阿部秀一郎

Abe Shuuichirou (51期)



登録以来会報委員会(当時の広報委員会)に所属している。友新ニュースの編集長を何度かやって、友新本誌の編集長も何度かやった。そんな中、会の広報員会副委員長をとのお話を頂き、そちらにシフトした。協同組合の広報委員長もしたし、近弁連の広報もやった。昨年6月から日弁連にも行っている。いい加減に、広報以外の活動も見たいと思い、会の司法委員会をのぞいたら、信託法部会と近弁連の税務委員会にも首を突っ込むことになった。

正直、オーバーワーク気味である。にもかかわらず、幹事長からの依頼を断りきれなかった。前幹事長にはもうやらないと大見得を切ったにもかかわらず。自身の弱さか…

広報の面白さは、①何を伝えるのか、②どう伝えるのかを考えるとところにあると思う。自由と正義、OBJ、BENBEN、友新、それぞれの性格の違う雑誌で、何をどう伝えるのかは、それぞれ違うし、それを考えるのは嫌いじゃない。個人的には訴訟戦略に役に立っていると思っている。なので、お引き受けした。

原稿の遅延は、他の会員や担当編集長や印刷会社への影響が大きいので、おやめ頂きたい。弁護士だから忙しいとお考えなのかもしれないが、皆弁護士なので、屁理屈にもならぬ。だいたい、多忙な人ほど、締め切りを守る。裏の締切を作るつもりはない。故に、原稿督促は、私が行うおうと考えている。場合によっては、原稿を落とすことも覚悟している。友新で出世しようとも、副会長になろうとも考えていないので、怒られても必要以上には気にならない。

ご意見・苦情の類は、一切、私が引き受けるので、遠慮なく申し出ていただきたい。できれば、くだらない批判はお控えいただき、誌面に対する希望・批評を、大いにお寄せいただければ有難い。

今年度、会報委員会の副委員長を受けて頂いた各位には、この場を借りて厚くお礼申し上げます。